東京大学都市デザイン（西村・窪田）研究室
工学部都市工学科／工学系研究科都市工学専攻
http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/index-j.html

Urban Design Lab. Magazine

編集長　：大森 文彦
編集委員：石井 かおる　北川 貴巳　松本 綾
柏原 葉那　越村 高至　萩原 拓也　福士 薫
都市デザイン研マガジン vol.188　2013.2.10

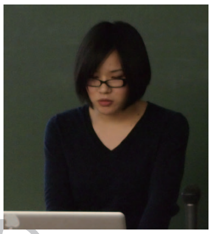
平成 24 年度修士論文審査会 ー男女７人 修士物語ー

The Final Defense of Master's thesis in 2013.　ー The compilation of each 7 masters ー

text_ishii

２月５日（火）、都市デザイン研究室の修士２年の７名が、修士論文審査会で発表を行いました。多くの方に支えて頂いた感謝を胸に、無事に発表を終えたメンバーの修士論文に対する思いを語って頂きます！

一連の都市開発に潜在する「集団的意図」に関する研究
- 福岡市都心部を対象として -



福岡に居を移すという我儘で自分勝手な行動をしてしまいましたが、皆様のおかげで一段落を迎えることが出来ました。福岡で感じたことのうち、形にできたものは 10%に満たない気がしますが、この悔しさを次に繋げたいと思います。　浅野 純子

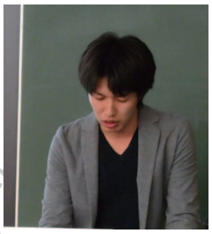
遊休内港地区の漸進的再生に関する研究
- 大分港西大分地区、広島港宇品中央地区、徳島小松島港万代中央埠頭 -

修士生活の２年間で取り組んできた港湾とその後背地市街地に対する思いが、なんとか研究として結実できたと思っています。悶々とした 12 月から、怒涛のように過ぎた１月を、しみじみ振り返る 25 歳の冬でございました。　大森 文彦

コミュニティカフェが生み出す新たなつながりに関する研究
- 洗足・港南台地域を事例として -

「つながり」という曖昧なテーマでしたが、先生方や研究を通じて出会った方々から多くのご助言、励ましを頂きました。ずっと興味のあったことにとことん向き合った時間は、今後の糧になる貴重なものだったと感じています。　松本 綾

鬼怒川上流域の河岸町における空間構造とその変容に関する研究

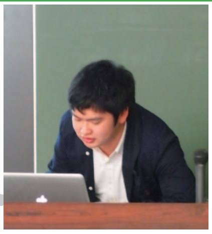


最後に、支えが無ければ立っていることもままならなかった自分に対する反省が大きいですが、たくさんの方々に支えられたこと、また研究を通して成長できたと感じる所もあって、このテーマにして良かったなと思います。　安東 政晃

東京都心部における地下鉄出入口の変遷と実態に関する研究
- 利便性に着目した評価 -

自分は今、東京の地下鉄駅に世界一詳しい！と自負して発表に望みました。言いたい事が上手く伝わらず反省点の多い発表でしたが、あまり考える事のなかった色々な視点を与えて頂き、都市工学生として恵まれた時間を過ごす事が出来ました。　北川 貴巳

浅草地区における宿泊型ゲストハウスの実態と可能性
- 外国人個人旅行者向け低廉宿泊施設で起こる交流が地域にもたらす効果に関する研究 -



比較的新しい分野にテーマを設定したことで、研究の初期の方は手探りの状態で悩んだ時期も長かったですが、なんとか形に出来てホッとしました。『プレゼン』は今後の人生における課題となりました (苦笑)。　仲村 貴文

住商混在エリアにおける地域性に関する研究
- 吉祥寺・東急裏の商業関係者の意識に着目して -

人生の大半を過ごしてきた街のはずが知らない事も沢山あり、新鮮な気持ちで研究に取り組む事が出来ました。論文としてはまだまだですが、これで終わりではなく研究を通した人のつながりを大事に街のこれからを考えていきたいと思います。　石井 かおる

全員の発表が２月５日（水）で終わり、その夜に、本郷三丁目の焼肉屋「房屋」で打ち上げが行われました。修士生が自らの研究について自己採点し、先生方から講評をいただきました。西村先生からは「それぞれの修論テーマが、２年間あまり変わらず一貫していた。」という総評を頂き、今までにない達成感と満腹感を味わった夜でした。もう、お腹がギュウギュウ。

▲一次会終盤の焼肉屋での様子

▲西村先生による講評に耳を傾ける一同

連載企画

OB・OGめぐり第12弾！

The news from OB・OG of UD Lab. Vol.12!

都市デザイン研究室のOB・OGの方々に、卒業後の仕事や活動に関して寄稿して頂く企画です。第12回目の今回は、平成7年に修了された文化庁・市原富士夫さんです。

私は、都市工に入ってすぐの住宅地設計の演習でデザインに夢中になり、都市デザイン研究室のお世話になりました。その後、現在に至るまで様々な形で、西村先生、窪田先生、研究室の皆さんに大変お世話になっています。

文化庁に入り、12年目となりました。その間、考古学を一から学ぶために奈文研で発掘調査の研修を受けたり、世界遺産の仕事でユネスコ世界遺産センターにお世話になったりしました。

現在、私が担当している「文化的景観」の保護は、名勝や伝統的建造物群の保護を融合発展させて、日本独特の景観を文化財として後世に伝えていこうという取り組みです。ここで「取り組み」と書いたのは、まだ始まったばかりの制度で、具体的に何を守れば「景観」を守れるのか試行錯誤段階にあるためです。目に見える「景観」を保護対象としている一方、その背後にある「担い手」・「仕組み」は見えづらいため、巧みにそれらを捉えて保護しなければなりません。大きな社会構造変化の中、文化庁がどこまで手を広げていけるのかがこの制度の成否を決めるものと考えます。

多様な立場の方々の中で、現状の課題を整理し、将来像への合意へと導くこの仕事は「まちづくり」や「計画系」の人が先頭に立つべきだと私は思っています。都市デザイン研究室でみっちり（?）トレーニングされた後輩にこの仕事を受け継ぐことが自分の使命だとも思っています。

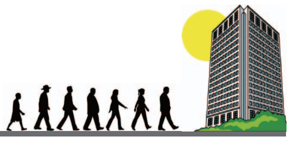
学生の方々にはあまり知られていませんが、記念物課の全国の仕事に都市デザイン研究室の先生方が古くから深く関わられています。この隠れたメジャーな分野に興味ある方は遠慮なく以下のアドレスまでご連絡ください。（ichihara@bunka.go.jp）

▲2007年パリ世界遺産センターにて（中央本人）

▲奥出雲　鉄穴流し・たたら製鉄の農村景観（島根県奥出雲町）

清水建設新本社ビル見学会

The tour of Shimizu Corporation's New Head Office was held



text_kashiwabara

1月30日(水)に、清水建設本社見学会が行われました。当日は、黒瀬助教と学生6名で訪問しました。清水建設本社ビルは昨年の5月に竣工し8月に本社移転がされた、出来立てほやほやの最新型オフィスです。都市工OBであり、西村先生と同期でいらっしゃる久保様を始め、研究室OB、都市工OBの方々が出迎えて下さいました。

さて、清水建設本社ビルは、CASBEE評価で過去最高の9.7ポイントを記録し、現在日本一の評価！という、超環境オフィスです。輻射空調システムや自然光を最大限に利用した照明設備､太陽光パネルなど、環境負荷を低減させる設備がたくさん組み込まれています。又、地域にも配慮がされているという事で、２階のカフェテリアは災害時には地域防災本部となり、本社ビルの裏には子育て支援施設を建設中、敷地内には地下鉄浅草線宝町駅の出入り口が設置され社員の方々だけでなく周辺地域の方も多く利用されているようでした。オフィス内部はPC外周フレームによる柱のない大空間が広がり、設計フロアではミーティングスペースを囲み、個人のスペースが広々と組まれ、上下階をつなぐ内階段を設けるなど、開放的な空間が広がっていました。

見学終了後には、お昼のお弁当までご用意して頂き､本社ビルに関する質問のほか､会社のお話、都市プランナーとしてのお仕事のことなど、幅広い話題を、時には留学生に向け英語を交えながらお話しすることが出来ました。清水建設の皆様には、大変お世話になりました。貴重な機会をありがとうございます。

▲エントランス前にて記念撮影

OB 塚本氏凱旋訪問！

text_omori

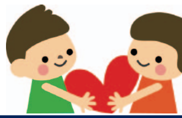
修論提出差し迫る1月18日(金)に、UR都市機構九州支社で働くOB(2011年度学部卒)の塚本恭将君が、激励に駆けつけました。塚本君提案の団地リノベーション物件が実際に完成した写真や紹介HPを見せてもらい、大いに刺激になりました。

▲既に完成した物件に黒瀬助教の厳しいエスキスが！

information

２月の予定

２月13日	卒業設計審査会
２月15,18日	博士論文審査会
２月19～20日	大槌現地調査
２月27日	第18回研究室会議



編集後記

石井 かおる

最後の担当号を迎え､ありきたりですがマガジンでの２年を振り返ってみます。編集ソフトとの格闘から始まり、前編集長とのレイアウト等に関して戦いを繰り広げる、という様に最初の１年は何かと戦っていました。２年目は同期との社会科見学、現編集長への応援、後輩への緩いチェック、と半隠居のような状態でありましたが、充実した２年間であったと今更ながらセンチメンタルな気分になります。少し暗くなってしまったので、最後に感想を私流にまとめると、「マガジン楽しかったなあ♪♪」ありがとうございました！では、皆様ごきげんよう。